

文京区リサイクル清掃審議会 第 1 回食ロス検討部会の報告について

- I 日 時 令和 2 年 7 月 6 日（月） 午前 10 時 00 分～11 時 44 分
- II 場 所 文京シビックセンター 24 階 第 1 委員会室
- III 出席者 【委員】 南部（座長）、諸留、渡辺、寺澤、吹野、甲野、村田（薫）  
【関係者】 藪田会長（オブザーバー）、栗原（委託事業者）  
【幹事】 八木、村田、村岡

(1) 計画の背景について

- ・事業者としても計画に貢献していかねばならない、皆の心をうまく変えていくのが大事、できることをしぼって 1 つずつ進めていくなど、各委員の食品ロス削減に対する取組姿勢に関する意見があった。

(2) 基本指針について

- ・スローガンについては、わかりやすいという意見があった一方で、「無理をせず」や「明るく楽しく」は、食品ロス削減のスローガンとしてどうなのかとの意見があり、「生産者の想いを忘れずに」という表現を加えた方がよいとの意見があった。

(3) 目標値の設定について

- ・目標値の設定について、数値だけではわかりにくいので「野菜に例えると何個分」など具体的にイメージできる目安が必要との意見があった。

(4) 進捗管理について

- ・興味のない人をいかに積極派に取り込むかが大事、子育て世代など各年代の生活スタイルに合わせた手助けなどを検討する必要がある、区商連（文京区商店街連合会）とリサイクル清掃課の連携などの、指標を上げるための具体的な意見があった。
- ・販売店や飲食店についても家庭と同様の指標が必要との意見があった。

(5) 具体的な施策について

- ・普及啓発が大切、食品ロスの削減にはインセンティブが必要、意識だけではなく行動を促すような普及啓発が必要、食べきり協力店のステッカーを目立つようにしてアピールしていきたい、学校で食品ロスの教育の実施などの意見があった。

(6) 計画の推進体制について

- ・特に意見はなかった。

(7) 区民・事業者・区の行動計画について

- ・事業者としての取組、講習会・料理教室などの開催、食べきり協力店の拡充、商品の手前取り、小盛メニューや 3010 運動など、各委員がそれぞれの立場での取組について意見があった。
- ・表 3 の各主体の行動指針については、「依頼」程度の表現がよいとの意見があった。

(8) その他

- ・消費者がどう変わるか、どう変えるか。これらの取組を行うことのメリットや経済効果があること伝える必要がある。